

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0873900559		
法人名	社会福祉法人 聖隷会		
事業所名	グループホーム玉里の里	ユニット名(なのはな棟)	
所在地	茨城県小美玉市高崎1824-500		
自己評価作成日	令和 4 年 12 月 16 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0873900559-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階
訪問調査日	令和5年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所は、周辺に田園・放牧地を有し、リビングからは紫峰「筑波山」も眺められるのどかで緑豊かな環境下にあります。入居者様お一人お一人の尊厳を大切にして、家庭的な雰囲気の中で在宅生活時と同じように安心して暮らしていただけるように支援しております。
 ・地域の行事等には積極的に参加しながら、地域に選ばれるグループホームを目指して、気軽に立ち寄れる施設造りに努めております。
 ・関連施設として、精神科・内科の病院の他、介護老人保健施設等の事業所もあり、相互連携により医療相談・入所相談が受けられる体制を構築しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の隣には広大な畑が広がり近隣では牛が放牧されているなど、自然豊かで民家も点在し利用者が長閑に暮らせる環境となっている。事業所の玄関前アプローチにベンチを置き、利用者がいつでも日光浴や外気浴、喫煙などで気分転換が図れるとともに利用者同士の寛げる場所であるほか、玄関脇に犬を飼っていることで利用者の癒しになっている。管理者は利用者一人ひとりの生活時間に配慮した支援をすることを心掛けている。職員間の連携が強く、勤務年数の長い職員が多いほか、アイデア豊富な職員、手先の器用な職員が在籍していることから、高さ2メートル程の赤い鳥居とお賽銭箱を制作しているとともに、居間に飾る繊細な貼り絵の数々など見る人誰もが感動する作品を飾りながら季節感を醸し出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方々と共に、その人らしく暮らせるように独自の理念があり、毎日朝礼にて唱和共有している。また、玄関口や棟の共有スペースに掲げるなど日々実践している。	理念を玄関とユニットに掲示し、各自で確認している。理念にある「その人らしいあり方を目指す」を意識し、利用者一人ひとりの生活時間に配慮した支援をするように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事・催し物等に積極的に参加して、地域のボランティアの受け入れなど連携を深めながら暮らせるよう努めている。今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、交流を自粛している。	介護相談教室を開催し、地域の方にいつでも相談に来てもらえるようにしている。天気の良い日には、散歩しながら地域の方と挨拶を交わしたり、放牧されている牛や近所の理髪店で飼っている山羊等もみながら地域の一員として過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やボランティアの受け入れ等、認知症への理解を深めたり、地域の方々に力になれることや、相談できる体制作りなど貢献している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催して、施設の緊張報告や参加者からの意見を頂き、職員に資料を回覧するなどしてサービスの向上に努めている。	市担当者からは感染症の状況や防災対策、運営推進会議のコメントなどについて書面が届き参考にしている。毎回、事業所からの報告のみの書面開催となっており、委員から運営に反映する意見を得るまでには至っていない。	委員から運営に反映する意見が得られるよう事前に課題を投げかけるなどの工夫をしながら書面開催でも活発な運営推進会議になることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小美玉市地域密着型サービス事業者連絡会議に参加して、他施設の訪問見学等により情報交換を行い、協力関係を築くように努めている。	介護保険更新等や運営上の困りごと等、里長が定期的に窓口を訪問し相談し、助言を得られるような良好な関係を築いている。グループホーム連絡協議会があり、他事業所とも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則行わないこととしている。入居者本位の考え方に基いて支援を行っており、ユニットごとに日常的に話し合い入居者への支援を行っている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1度開催し、身体拘束をしないケアに努めている。日常的に、各ユニットごとで身体拘束をしない取り組みについて話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所で勉強会を行い、日常の対応を観察しながら、職員間においてもお互いに注意しあえる環境作りと、意識の統一を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政から関係資料を調達し、学ぶ機会を持っている。玄関口パンフレットコーナーに当該資料を整備しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、読み合わせを行い、同意の下に署名を頂いている。又、報酬や契約の改定、改正が行われた際には、家族に説明し同意を頂いている。又、退去される場合は今後の方向性や必要サービスなども連絡・説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族等が、意見や要望を出しやすい雰囲気作りをし、面会時や病院受診時の連絡など内容を聞けるようにしておりサービス向上に努めている。	面会時には必ず声をかけを行い、また電話等で意見や要望、困りごとはないかなど聴くように努めている。家族等から意見や要望が出た際には職員会議や運営推進会議で話し合いの場を作るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新しい入居者の方が入居する前に、状況、情報をスタッフ間で検討し、かつ、毎月のユニットごとの会議にて意見交換をして施設運営に反映させている。	職員から電化製品などの不具合や故障などの報告時には、管理者はすぐに修理や買い替えなどの対応をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則により、個々の職員の環境に合わせ勤務体制を組んでいる。又、個々の職員の得意分野を活かした提案など取り入れ、活力ある職場環境を作っていくよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催では、上級救命研修会やグループホーム勉強会が開催されている。また 資格取得に向けて支援を行っている。必要に応じて、公平に外部研修を受けられるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人同グループ内旅行などで親睦を深め、情報交換等を行いサービスの向上に努めています。法人内、他グループホーム施設持ち回りにて施設見学及び議題を設けた勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人・家族と必ず面談を行い、現状把握と共に、困っていることや、どのようにしたいか等の思いの把握に努めている。又、入所前の施設見学も実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望・不安を受け止め施設側の意向を説明し信頼関係作りに努めている。不安を取り除けるように十分に姿勢やサービスについて説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとの情報交換や病院との連携をとり、入居者にとって最大限の望ましいサービスが提供出来るよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者の好み能力に応じた活動を、その時の気持ちを考慮しながら一緒に行っている。また、入居者の方から学ぶこともあり、職員も良い刺激になっている。一つ一つの声掛けも大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事によっては、ご家族もお誘いし、本人と家族との絆を大切にしている。また、日常の様子などは、面会時や電話、毎月のお手紙でお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られたり、地域の行事へ参加したり、近くをドライブしたりしている。今年度は、感染防止のため、面会等は控えてもらっている。	入居時の聞き取りからフェイスシートを作成している。新しく知り得た情報は、各ユニットごとの1冊のファイルに全利用者の1ヶ月分を記録しながら職員間で共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性もあるので、適度な距離感を保ちつつ共同生活を送れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のために退所されても、家族、本人のニーズに応じ、洗濯支援等行います。又、退所された方のかぞくとも関係が継続しその後も地域の方としての来訪がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時などに、本人やご家族様の希望や意向を聞き、入所後も月々の関わりの中で思いや意向を把握して希望に添えるようケアを行っている。	利用者との日々の会話や関わり(居室など)で希望や意向を把握しているほか、表出困難な利用者とは、態度や表情から汲み取り職員間で相談しながら把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの家具や、お気に入りの物を持参して頂き、生活環境の設定に努めている。また、家族やその他の関係者から情報を収集しこれまでの暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のアセスメントシートに記録し、心身状況を把握し体調の変化等を把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、各入居者について会議を行い、本人や家族の希望に沿って、介護計画を作成している。	介護計画は家族等に十分な説明と話し合いの上作成され、誰が見てもわかりやすく、職員も支援しやすい介護計画書となっている。毎月モニタリングを行い、基本1年で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事、水分、排泄等を記録し、スタッフ間で情報を共有し、ケアにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況にあった外出に対応している。又、家族の状況に応じて通院介助を、必要に応じて買い物等同行も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容や訪問歯科サービスを活用している。運営推進会議に地域の方々に参加して頂き、情報交換をし豊かな生活を送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者からの「かかりつけ医」の希望を大切に、施設の協力医との連携を取りながら支援している。家族の状況により、依頼があれば職員が付き添い通院の経過を家族に報告している。緊急時については、入所時に医療機関をどこにするか話し合い了解	契約時にかかりつけ医の継続受診が出来る事を説明している。協力医療機関の受診に月1回行っている。家族等が付き添う場合には日々の状態を記載した書面を作成し、持参してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護職員の配置はありません。介護職員が同じ系列の協力病院やかかりつけ医と連携し、状態変化があった時には、すぐに受診できる様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の状況に応じて、家族や医師と話し合う機会を持ち、早期退院を心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、施設で出来ること出来ないことを説明している。必要に応じて新たな支援を検討し、納得頂いた上で医師とも相談しながら推進している。	看取りは行わないことを、「重度化・看取りに関する説明文及び同意書」の中で説明し同意書を得ているが、看取りの同意書と明記しながら、重度化の指針と記載しており、何の同意書か把握しづらい。職員が重度化のマニュアル作成と研修を行うまでには至っていない。	重度化のマニュアルの作成と定期的な職員への研修を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の研修として、全職員が上級救命講習を習得している。また、施設内に「AED」を設置しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練には、運営推進委員の方や地域の方にも参加していただくように努めている。	夜間想定を含む避難訓練を実施し、訓練後は反省会を行っている。近隣住民へは協力の呼びかけを行っている。災害に備えた備蓄品を一覧表を作成して管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合った声かけや対応の中で、誇りやプライバシーを損ねることがないように留意している。尊厳を大切に、個人情報の取り扱いについては十分注意して行っている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。個人情報や肖像権も含めた人権尊重や守秘義務のマニュアルの作成と職員への定期的な研修を実施するまでには至っていない。	個人情報や肖像権も含めた人権尊重や守秘義務のマニュアルの作成と職員への定期的な研修を実施することを期待する。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情やしぐさから読み取ったり、常に本人に確認を取りながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間はほぼ決まっているが、本人の状態や希望があればそれに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にて希望を聞きながら対応している。一部の入居者は、本人のなじみの美容室を利用している。また 室内の清掃・片付けを一緒にしたり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況や栄養バランスに配慮した食事の提供をし、時々、食事の場所や献立の変更を行い、楽しめるように努めている。	同一法人の管理栄養士による献立で食材が届き、職員が調理して提供している。季節ごとの行事食を提供したり、餃子パーティーやおやつ作りなども行って食事が楽しみとなるような工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取状況を把握し、1日に必要な水分・食事量をバランスよく提供できるよう心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前の口腔ケアは出来ているが、毎食後の口腔ケアは出来ていないこともあり出来る限り声掛け等している。毎週月曜日の訪問歯科の受診時にチェックしてもらっている利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握することに努めている。定期的に声掛けしたり、顔色・表情・仕草を観察した支援誘導を行っている。	適切な声掛けをして、昼夜を問わずできるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。寝たきりの利用者に1日1回はトイレでの排泄を支援したことで、便秘が解消している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を管理栄養士の献立により取り入れられており、出来る限り体を動かし便秘等の改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に合わせて入浴時間や足浴、シャワー浴などを行っている。また、入浴を拒む方には声掛けを工夫しながら支援している。	転倒予防に浴室の縁に滑り止めシートを貼っている。利用者の希望する時間に入浴できるようにしている。入浴剤、ゆず湯、菖蒲湯なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりそれぞれの生活習慣に合わせて心掛け、室温や光、音などに配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、全職員が把握できるようにしている。変更があれば、アセスメントに記録している。服薬は、きちんと服薬できているかの確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	清掃や犬の世話など、入居者の得意な作業などを担当してもらい、張り合いが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って外出できるよう、家族に連絡して関わってもらったり、職員が連れ出したり、外出支援をしている。	近隣の牧場まで散歩に出かけ、牛を見たり、敷地内で散歩をして、季節の移り変わりを肌で感じられるようにしている。事業所の玄関前のアプローチにベンチが設置されており、利用者は自由に日光浴や外気浴、喫煙などをして、気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理希望のある方は、家族の了承のもと、管理できる範囲の額を所持できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話できる方は、お任せし、出来るだけ電話の相手を把握できるようにしており、自分で電話できないが、掛け方がわからない方など希望の連絡が取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々人が快適に過ごせるよう、光や音、室温などに配慮すると共に話し声の大小に気を付けています。また季節の花を飾ったり、行事に合わせた飾り付けをしている。	玄関に入るとひな壇が飾られ季節感が窺うことができるほか、職員手作りの鳥居等が置かれ、利用者や訪問者が神聖な気持ちになれる場となっている。事業所の玄関脇に犬を飼っており、利用者の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファを置きテレビを見たり会話しやすくゆっくりくつろげるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の、使い慣れた馴染みの物を持参していただいている。また、本人の好みに応じて、日用品の買い物にも出かけている。	管理者は利用者や家族等に使い慣れた物を持ち込んで欲しいと伝えている。利用者が部屋を間違えないように、利用者毎に違ったりボンや飾り物を利用者の入り口に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の行動にあわせて、ソファやベッドの位置を工夫し、自由な行動をしながら、安全な生活が送れるようにしている。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名 グループホーム玉里の里

作成日 令和 5 年 3 月 23 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに次のステップへ向けて取り組む目標を職員一同で話し合いながら作成します。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくなならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	市担当者からは感染症の状況や防災対策、運営推進会議のコメントなどについて書面が届き参考になっている。毎回、事業所からの報告のみの書面開催となっており、委員から運営に反映する意見を得るまでには至っていない。	委員から運営に反映する意見が得られるよう事前に課題を投げかけるなどの工夫をしながら書面開催でも活発な運営推進会議になるようにしたい。	委員から運営に反映するような意見を得られるように、会議案内資料等で、施設に関する課題、問題点等を投げかけていく。	2 ヶ月
2	33	看取りは行わないことを、「重度化・看取りに関する説明文及び同意書」の中で説明しながら、重度化の指針と記載しており、何の同意書か把握しづらい。職員が重度化のマニュアル作成と研修を行うまでには至っていない。	重度化のマニュアルの作成と定期的な職員への研修を行う。	重度化のマニュアルの作成を行い、職員に対しての研修を定期的に行う。	6 ヶ月
3	36	利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに配慮している。個人情報や肖像権も含めた人権尊重や守秘義務のマニュアルの作成と職員への定期的な研修を実施するまでには至っていない。	個人情報や肖像権も含めた人権尊重や守秘義務のマニュアルの作成と職員への定期的な研修を実施する。	個人情報や肖像権も含めた人権尊重や守秘義務のマニュアルの作成を行う。また、職員への研修を定期的に行う。	6 ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注1) 項目番号の欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。